

「ボーダレスな危機連鎖時代の社会とガバナンス」研究会

変動するラテンアメリカと民主主義の試練

—選挙イヤーのウルグアイ政治・社会情勢を中心に—

ラテンアメリカの政治・社会情勢が激しく動いている。近年の選挙では、ブラジル、チリ、コロンビア、ペルー、ホンジュラス、グアテマラで左派系の候補が当選し、「再びのピンク・タイドか」とも評された。他方で、アルゼンチンでは2023年秋の選挙でリバタリアンの経済学者ミレイが当選し、一様でない政治地図が現出した。コロナ禍での生活苦・社会不安を背景に、強権的な治安政策や政治的・市民的権利の侵害事例も各地で報告されている。民主主義が重大な試練に直面していると言われるなか、2024年は世界規模で選挙プロセスが進行中である。秋に大統領選挙を控えるウルグアイを中心に、南米南部の政治・社会情勢を報告する。

2024年4月19日(金)

17:00~18:30

ZOOMによるオンライン研究会

■ 報告者 中沢知史氏 立命館大学 講師

■ コメント 池田和希氏 東京外国語大学 特別研究員

■ 司会 舩方周一郎氏 東京外国語大学 准教授